

発行所
真宗大谷派宗務所
代表者 木越 渉
編集/東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)

購読料 無料
送料 1部1カ年1,300円
(1,182円+税10%)※部数により変動
振替口座番号 01000-6-27404
加入者名 東本願寺出版部

東本願寺公式YouTubeにて
さまざまな行事の様子を
公開しています。



東本願寺NEWS

検索

どうぼうしんぶん

同朋新聞

Dōbō Shimbun

5

Vol. 798
May 2024



渉成園で舟旅体験



今月の写真



東本願寺飛地境内地、渉成園内の印月池に舟を浮かべてもてなしたという記録を基に、和船を再現。おもてなしの一端を再現する「名勝渉成園」おもてなしの舟旅「特別ツアー」が3月31日から4月7日まで行われました。
(7面参照)

今月の法話 如是我聞

ことばの響きあう世界

九州教区 豊前中津組 観定寺
大江 憲成(79)

鈴木大拙先生[※]が語りかけてくださる言葉に「そのまま」がある。

それは如来さまの「如」を表しており、日常のことばによる解釈が届かない、まことに広大で奥深い世界を指し示している。従って理知で迫ろうとする私にとっては大変な、やっかいなことばであった。

ところが、かつて九州大谷短期大学福祉学科での授業中のことである。介護実習を終えたある学生が「大変なことを学びました」と言っていて体験発表してくれた。担当した被介護者が「ああ、死にたい。どうしてこんな目にあわねばならないのかね」と当たり散らしていたという。

学生はその人にむかって「Aさん、あなたはあなたのままで、そのままでもよかとよ」と語りかけた。Aさんはしばらく黙っていたが「学生さん。あなたやさしかとね。ホンマにホンマにありがとね」と言ってくれたという。その発表を聞いて教室中も静まりかえっていた。

学生のことばは被介護者の心の奥底に響き、大切なことを気づかせてくれたのであろう。

人間には誰の所為でもなく、誰にも代わつても呼びかけられてはじめて、思いこみの闇が照らされて、わが身の事実そのままがいただかれてくる。そこに不思議とことばの響きあう世界がある。

※1870年~1966年 石川県生まれ。仏教学者、大谷大学名誉教授。佐々木月樵、赤沼智善らと東方仏教協会を設立。英訳『教行信証』を執筆。

CONTENTS

人間というのちの相
「学校給食」に
込められた思い
中島 勝男さん



通信員リレーレポート
現在を生きる 第247回
縁—お寺の掲示板— 第10回

ひかりを伝えたひと
—七高僧と聖徳太子— 第5回

住職さんと一緒に
同朋会館に行こう!
—東本願寺で過ごす話—



令和6年能登半島地震で被害に遭われました被災者の方々に対し、衷心よりお見舞い申し上げます

この紙面では、さまざまな人とおして、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思ひます。

人間のいのちの相



「学校給食」に込められた思い

インタビュー
中島勝男さん

子どもたちが楽しみにしている「給食の時間」。「食育」という言葉もあるように、給食はただの食事の時間ではなく、食事をとおして地域の文化や世界情勢なども学べる貴重な機会です。日々の学校給食に込められた思いとは。埼玉県にある学校給食歴史館館長の中島勝男さんのお話から人間の相を考えます。



1959年、埼玉県生まれ。1983年から財団法人埼玉県学校給食会(現・公益財団法人埼玉県学校給食会)に勤務し、食材の普及や、食材の調達、地場産物を利用した食材の開発などの仕事に携わる。2023年に学校給食歴史館館長に就任。

学校給食はどのように始まったか

「学校給食歴史館は、どんな経緯でつくられたのでしょうか。」

2005(平成17)年に食育に関する取り組みを推進するために「食育基本法」という法律が制定されました。学校給食の食材を適正・円滑に供給する機関である私たち埼玉県学校給食会では、それをきっかけに、学校給食に関する資料等を収集公開することによって、学校給食への理解促進と食育の推進に役立てていただくことと、2010(平成22)年に歴史館を開館しました。



学校給食歴史館外観

歴史館には、さまざまな年代の給食のレプリカが展示されていますね。

そうですね。歴史館の開館にあたっては、まず資料を集めることからスタートしました。学校給食のメニューを再現したレプリカは、国立競技場を運営している現在の独立行政法人日本スポーツ振興センターが、1989(平成元年)「学校給食100周年」の際に作製したレプリカを基にしています。往年の献立の文献などを調べ、これを実際のレプリカにするのはとても大変な作業です。作製した方たちも、かなり苦労されたのではないかと思います。

また、食材供給に関わる工場で使用していた古い機器などを展示したいと思っているのですが、こうした機器は時代に合せてほとんど更新されていくもので、すでに処分されてしまっている物も多

く、もつと早いタイミングで気づいていればよかったと思う時もあります。もうすぐ、給食会の設立70周年を迎えますので、それに合わせてもう少し展示品を集めたいと思っています。

学校給食は、いつからどのような目的で始まったのか教えてください。

日本での学校給食の歴史は、1889(明治22)年に現在の山形県鶴岡市の大誓寺というお寺の中に設立された私立忠愛小学校から始まりました。

この小学校は、家が貧しくて学校へ通えない子どもたちのために、いろいろな宗派のお寺さんが協力して始めた学校です。



日本で最初の学校給食

教育的効果や民主主義的な思想の普及と、給食の役割が変化しながら今に至っていると思ひます。

「コロナ下において、学校給食にはどのような影響がありましたか。」

ちょうど2020(令和2)年の3月から5月にかけて学校が臨時休校となりました。その後も、緊急事態宣言やまん延防止策などが発令されるたびに、給食も簡易的なメニューになるなどの影響がありました。

また、臨時休校の間中は、長期間にわたって給食がなくなり、食材供給事業全体が止まりました。戦後から長い間携わってきたこの事業でも初めての経験でした。

特に、学校給食の食材供給は、給食を主事業として経営している地域の中小企業が大部分を担っています。そういった中で供給体制の維持も課題となりました。

給食をとおした学びとは

中島さんは、学校給食歴史館の館長になられるまで、どのようなお仕事に携わってこられましたか。

学校給食会で勤務を始めて、最初の20年ぐらひは、食材の普及のための仕事に携わり、学校等への食材の案内や、食材の仕入れ、地場産物を利用した新たな食材の開発などを行ってきました。

食材の仕入れ業務では、決められた予算内でのみだけ安価で良質なものを仕入れることも大事ですが、そのほか、「何かストーリー性のある食材を取り扱えないか」と考えていました。

例えば、北海道で収穫されるトウモロコシ。夏休みに子どもが北海道へ旅行した時に広大なトウモロコシ畑を見たことを思い出すと、そういうストーリー性のある食材を扱いたいという思いで取り組んだ時期もあります。

現在の給食は、いろいろなメニューが取り入れられていますが、どういったところに配慮されていると感じますか。

学校給食の実施基準が定められてい

るので、まずその基準に則し、予算を守ることが前提としてあるのですが、その他にも食育の観点から、地場産物の活用や教科内容との連携、そして最近ではアレルギーへの対応を念頭に置いて、行事食や郷土食、世界の料理など、工夫されたメニューを提供しています。

特に、地場産物や食文化については、授業で学ぶ内容との連携を考えたり、地場産品や地域の食材を使う場合には、献立表に記載する食材名を目立つように工夫したりします。また、献立表の「お知らせ欄」などを使って伝えている学校もあります。

また、学校に食材の生産者や製造会社の方を招いて子どもたちとふれあう「ふれあい給食」を開催している学校もあります。生産者の方も自分たちがつくった野菜などを、子ども



地場野菜を使用した給食

たちがどんな表情で食べているか直接見ることができ、子どもたちもつづいている人と直接会うことができます。そうした人とつながりを大切にする工夫もされています。

学校給食では、現在さまざまな国の料理もメニューとして取り入れています。その始まりは、友好関係を結んだ国や都市について知ってもらおうと、給食のメニューに取り入れたことだったと思います。その後2002年に開催された日韓ワールドカップや2019年に日本で開催されたラグビーのワールドカップ、そして2021年の東京オリンピック開催に合わせて対戦国や合宿地になった国のメニューが学校給

食に登場することになりました。食という視点から世界を知るきっかけとなっているのではないのでしょうか。

食材から、現在の世界情勢を感じることもあるのでしょうか。

そうですね。頻発する世界的な異常気象。これは国内でも夏の記録的な高温や豪雨などの影響があります。また、コロナウイルスなどの感染症、そして現在もウクライナを始めとした地域紛争の問題など、さまざまなことが世界で起きています。そしてその影響は、食料の不足やエネルギー価格の高騰などによる急激な物価の上昇に表われています。

そういったことは、デザートが出る回数が減るなど給食のメニューに影響してきますので、上級生になるほどコースや社会科などで学んでいることが自分たちの生活に影響しているのを感じているのではないのでしょうか。



イタリア料理を取り入れた給食

先ほど「食育」というキーワードも出ていたと思いますが、給食をとおしてどのような学びを子どもたちに願っていますか。

給食が始まってから約130年。いろいろな歴史の積み重ねの上に、今の学校給食はあるのだと思います。

児童生徒の皆さんが、日々、口にする食材は、例えば米をつくる人、魚を捕る人、家畜の鶏や豚を育てる人、そして、それを加工する人、流通させる人も関わっています。さらに学校では、栄養士さんなど献立を立て、調理をする人がいます。

を持参できない子どもたちに無償でお昼ごはんを提供したのが始まりと言われてます。ですから、最初は貧困対策からスタートしたのではないのでしょうか。

当時は、このようにお寺さんが地域で中心的な役割を果たしていたことが大きいと思います。

こうして国家の主導ではなく、お寺など私的な活動から始まった給食が、関東大震災を経て、経済的に困難な児童の救済や就学奨励、栄養改善などへの効果が認められました。そして、おかずやみそ汁などを提供する給食が、徐々に全国へ広まっていきました。その中でも、中心的な役割を果たしたのは、地域のお寺さんをはじめ、篤志家の方たちだと思います。

しかし、全国に広がっていた学校給食は、第2次世界大戦による食料不足のためにほとんどの学校で中止になりました。特にそれは農地が少ない都市部で顕著でした。戦中・戦後の食料不足により、国民の多くは栄養不良となり、発育途中の小中学生児童に特に著しい悪影響

を与えました。そうした中で、食料不足への対処と子どもの発育の改善、健康保持を目指し、命をつなぐための学校給食が、アジア救援公認団体(LARA)やユニセフなどから送られた脱脂粉乳や、缶詰、小麦粉などの物資により再開しました。これにより、パン食を中心とした新しい時代の学校給食が広まってきたのです。

そして、1954(昭和29)年国が「学校給食法」を制定し、学校給食は単なる栄養補給のための食事としてだけではなく、教育活動の環として位置付けられ、全国で展開されてきました。

ですから、給食の歴史を大きく分けると、明治から大正期の篤志家による社会福祉としての給食、昭和の初めから戦時中にかけての体位向上を名目にした国の政策としての給食、そして、戦後からは



戦後の学校給食(脱脂粉乳・トマトシチュー)

修学旅行生参拝案内!

スタッフ(僧侶・門徒)が東本願寺の歴史や仏教の教えも交えながら御影堂、阿彌陀堂など境内を修学旅行生の滞在時間にに応じてご案内いたします。お子様、お孫様が京都へ修学旅行に行かれる場合にはぜひご紹介ください。

参拝後はオリジナル記念品があるよ!

■開催期間 5月8日(水)~6月7日(金) 平日午前9時から12時まで*

■受付場所 御影堂門下 参加費 無料(予約不要) 御影堂門下のスタッフにお声がけください。

※案内休止日は 東本願寺HPをご確認ください。

お問い合わせ 青少年センター TEL:075-354-3440 Eメール:oyc@higashihonganji.or.jp

5年ぶりに開催! 真宗本願子ども奉仕団

東本願寺で全国のおともたちと「いっばいあそぼう!」

奉仕団参加をご縁に、帰敬式(おかみそり)を受けられます

テーマ ほとけの子 ~なまえをよぶよであう あそぼう~

| | |
|-----------------------------|-----------------------|
| ■第1回 (1泊2日) 7月25日(木)~26日(金) | 会場 真宗本願(東本願寺)同朋会館 |
| ■第2回 (2泊3日) 7月28日(日)~30日(火) | 対象 小学校4・5・6年生 |
| | 定員 各回80人(団体65人、個人15人) |
| | 申込方法 研修部に電話でご予約ください。 |

お問い合わせ 真宗大谷派宗務所研修部 TEL:075-371-9185 FAX:075-371-9201 Eメール:dobokaikan@higashihonganji.or.jp

通信員リレーレポート

第247回 いまを生きる

有縁の方とご縁を生きる

三重教区三重組
正楽寺門徒
芝田 正次さん(64歳)



日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介しています。

三重県菰野町に住む芝田正次さんは、毎月一回、聴聞した内容や、先人の言葉、その時思ったこと、考えたことを書き綴った「徒然十一会通信」を発行し、有縁の方に配布されている。



ご縁をつなぐ「徒然十一会通信」

発行のきっかけは、第十一次特別伝道への参加と、自分の信仰を確かめたいという思いからだといふ。「せっかくだと一緒にお話を聞きたので、みな御同朋御同行という気持ちになれたら良いな」という思いを込めて発行されている。人に読んでもらうこ

とで、自分勝手な考えに固まってしまうように心掛けています。通信を始めておよそ5年、同期の受講者とのご縁をつなぐ活動を続けられている。そんな熱心な芝田さんだが、以前はお寺に関わることも特に無かったという。聴聞のきっかけは、同じ組にある金藏寺の訓覇住職との出遇いだつた。芝田さんが暮らす地域では、葬儀の後、お骨が自宅へ帰つて来た時に、地域の自治会の人々が調声人となつてお勤めをする風習があつた。お勤めを

覚えなれないといけなかつたところ、親類の法事の席で訓覇住職と出遇い、お勤めの練習から始める同朋の会を紹介された。「本当にご縁だつたな、と思つています。訓覇住職と出遇つていなかったら、今の自分はないですから」と振り返る。思つたことがあると、突き詰めた、もつと知りたい、となる芝田さん。そこから仏法聴聞の日々が始まり、現在ではSNSも使い、宗派を越えて多くの人々と語り合つている。こうしたご縁が繋がりを、桑名別院で御堂役を務め、境内の草刈りや報恩講のお手伝い等、別院の護持をされている。「自分の意志で聴聞していても、何かに背中を押されていると感じています。昔の人が言う阿弥陀さんの「ご催促」であり、安田理深先生の「しなくてはならないのならやめなさい。やらずにおれないのならやりなさい」ということではないか、と思つています」と芝田さん。「つくづく一切がご縁やなあ、というような気がしていますね。ご縁で今の自分がある、ご縁が今の私になっている」と仰つた。私は、取材をとおして、ご縁をいただくことの不思議さと出遇いの大切さを感じた。

三重教区通信員
山田 潤貴

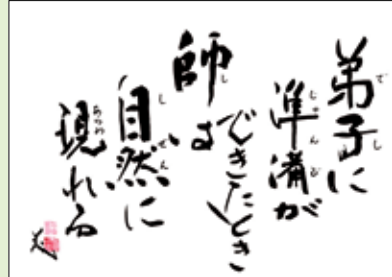
※生活のさまざまな問題を真宗の教えに尋ねる集中講座。地元寺院と真宗本願を会場に行われ、三重教区では約60年続いている。

縁 お寺の掲示板 第10回

お寺の掲示板に込められたさまざまな願いを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。



ぞんみょうじ
存明寺(東京教区東京5組)
東京都世田谷区北烏山4-15-1
住職 酒井 義一



この言葉は、チベット仏教の言葉といわれています。教えを聞く準備ができていない時、つまり自分の力だけで「まだまだできる」と思い込んでいる時は、いくら師が現れても素通りしてしまいます。生きていけば夢が破れたり心が砕けることがあるけれども、そのような時こそ、確かなもの、人生の師と呼べるものに出遇うチャンスであるという意味でこの言葉を選びました。

存明寺ホームページ



存明寺の境内には3カ所に掲示板が設置されており、それぞれテーマがある。本堂前は釈尊や親鸞聖人の言葉、お寺の入り口は行事案内と併せてどのようなお寺であることを示す言葉、お寺の角は通勤通学でお寺に面した道を通る方に向けた短い言葉を掲示している。掲示板の言葉を書いている酒井住職は、本や『同朋新聞』、他のお寺の寺報などを読んで印象に残った言葉を記録していき、家族に相談して掲示する言葉を決めているそうである。掲示板の言葉を見て励まされて、お寺の聞法会に来るようになった方がいたり、SNSに投稿した掲示板の言葉について、「読んで励まされた」など感想が寄せられているという。「仏教や浄土真宗の教えは言葉になって、その言葉は必ず人に伝わることを信じています。そのために、自分が聞いて大事にしたいと思う言葉を伝えていきたいです」と、酒井住職は話す。掲示板だけでなく、本堂の中や玄関など境内の至る所に法語が掲示されていた。教えの言葉を大事にする酒井住職の人柄が感じられた。

東京教区通信員
平松 正宣

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入 Tel.075-343-0458 Fax.075-371-0458

法藏館

http://pub.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp 新刊メール配信中!
お買上16,500円(税込)以上送料無料で 表示価格はすべて税込

新装版 親鸞のコスモロジー 一、九八〇円
大塚 顯著
念仏とは宇宙の法則に従うことである。概念化された言葉の殻をラディカルに打ち破り、親鸞浄土教のダイナミックな世界観を描き出す。

新装版 仏教とは何か 一、四三〇円
横超慧日著
本書は、仏教を知ろうとする人々へ向けてそのあらましや、「出世」「無常」等にある仏教の視点を平易に述べた入門書。

新装版 仏教語入門 二、二〇〇円
橋本芳契著
仏教を理解するためのキーワード160語を選び、その起源・歴史を易しく解説。仏教のことが伝わる入門書が新装版として復刊。

インド仏跡ガイド 一、九八〇円
桜井俊彦著
ブツダの生涯を訪ねてインドの仏跡を訪れる際に便利なガイドブック。ブツダの生涯を学ぶ入門書としても最適。

法藏館文庫 近刊
西川幸治著
近代以降埋もれた聖跡を求めて数多行われた学術探検隊による調査の歴史をたどりつつ、仏教聖地の往事の繁栄の姿をたずねる。 一、五四〇円

ブツダとサンガ
三枝充恵著 丸井 浩一監修
一人のブツダから多くの仏が生まれたのはなぜか。サンガはどのように成立したのか。仏教の根本問題を明快な叙述で解きほぐした一書。 一、二二〇円

現代語訳 南海寄帰内法伝
七世紀インド仏教僧伽の日常生活 義浄著 宮林昭彦・加藤栄司訳
7世紀のインドの僧侶は何を食べて、どんな生活をしてきたのか。唐の僧・義浄がインドと中国の戒律を比較して記した第一級の留学レポート。 二、七五〇円

しかりを 示したひと

七高僧と聖徳太子

第5回



親鸞聖人がお念仏の教えを自分のところまで届けてくださった師として、生涯大切に仰がれた方々がいます。「七高僧」と呼ばれるインドの龍樹・天親、中国の曇鸞・道綽・善導、日本の源信・源空(法然)。そして「和国の教主」と仰がれた聖徳太子です。親鸞聖人は彼らからどんな「ひかり」を受け取られたのでしょうか。本号では「正信偈」とおして、龍樹の教えを振り返ります。

龍樹菩薩



釈迦如来楞伽山
為衆告命南天竺
龍樹大士出於世
悉能摧破有無見
宣說大乘無上法
証歎喜地生安樂
顯示難行陸路苦
信樂易行水道樂
憶念弥陀仏本願
自然即時入必定
唯能常称如来号
応報大悲弘誓恩

〔「正信偈」真宗大谷派勸行集〕
十五〜十七頁

龍樹菩薩が示したこと

親鸞聖人が長年おられた比叡山では、仏陀は開示悟入という段階を踏まえて教化されるといいます。まずは「開き」、ついで「示し」、「悟らせ」、「(道に)入らせる」というものです。これに擬えれば、龍樹菩薩のお仕事は「示」に重点があつたと言えるでしょう。どんなに選択肢があろうとも、そもそも示されていなくては選択肢にはなり得ません。仏教にもさまざまな道筋があることを、龍樹菩薩は示しました。

「高僧和讃」では十首にわたって龍樹菩薩の徳を讃えておられますが、「正信偈」では端的にまとめておられます。

釈尊入滅後、教えはさまざまに展開し、それが真実なのかわからないほどでした。それは、私たちが「有無の見」(分別)にとらわれているからです。その有無の見を、摧けるのだと、龍樹菩薩は自らがよろこびの境地(歎喜地)にいたることで示しました。

さらに、歎喜地にいたるには、阿弥陀仏の名を称えるという易しい行だけで可能だとします。それを易行といい、自らの足で歩まねばならない陸路に対して、流れにゆだねて進める水路に喩えています。

しかし、私たちは、た易くできることには、困難なことには大きな価値があると、思っています。釈尊は苦行をやめてさとり

をひらきました。ところが、しばしば「苦行の末に、さとりをひらいた」などと表現されます。難しいことや苦しいことにはそれだけで価値があるのだと、私たちは思いたいのです。

龍樹菩薩は、私たちに多くのことを示しました。釈尊のさまざまな教えの中に大いなる教え(大乘)があること。その教えは私たちの日常的な考えを超えたものであること。それは歎喜地にまでいたるものであること。行にも難しいものと易いものがあること。難行と易行とは優劣がないこと。こういった龍樹菩薩の教えは、釈尊の教えに直接に連なるものでした。

親鸞聖人は、これらのことをとおして、阿弥陀仏の本願が一筋のひかりとして私たちに届いていることを確信されたのです。



あきら 采翠 晃
大谷大学文学部
仏教学科教授
京都教区近江第25西組
長光寺住職

次回からは、
天親菩薩について
たずねていきます。



住職さんと一緒に 同朋会館に行こう!

— 東本願寺で過ごそう 話そう —

東本願寺境内にある同朋会館。全国からご門徒が集い、寝食を共にし、お話を聞き、語り合う場です。新型コロナウイルスの影響によりそのことがままならない時期もありましたが、現在、真宗本廟奉仕にお越しいただく方の数は少しずつ増えています。今号では、新たに就任された住職がご門徒と一緒に上山された奉仕団の様子を紹介し、同朋会館でゆっくり腰を据えて、お互いの声を聞き合いませんか?

住職就任をきっかけに ご門徒と奉仕団へ



— 富山教区圓龍寺 —
圓龍寺(富山教区)
住職
まるやま なおひで
圓山 尚英さん

一昨年、住職に就任された圓山さん。総代の平野専作さんと一緒に住職修習を受講されました。「本山という場に身を置き、なぜかわからないけれど感動で心が震えました。帰りの車中、平野さんにそのことを話すと「私もそう思っていた」とのお返事が。私だけではなかった。ご門徒も誘って、もう一度本山に行きたいと思っていた矢先、本山から「新任住職引率奉仕団助成」のお知らせが届いたのです。本山も自分たちの思いを後押ししてくれている!と感じ、真宗本廟奉仕の参加を決めました。」

圓山さんを含め5人で上山。1泊2日の真宗本廟奉仕に参加されました。日程中にお二人が帰敬式を受式され、おはなしあい(座談)の時間に、仲間に法名を披露。圓山さんから法名に込められた願いを伝える時間もありました。

お寺に帰られてから、他のご門徒にも今回の上山の話をされ、再び真宗本廟奉仕に訪れることができればと思っておられるそうです。



法名披露の様子



圓龍寺奉仕団のみなさん

同朋会館での生活をご紹介

— ゆったり、安心してお過ごしください —



結成式

さあ、真宗本廟奉仕のはじまりです



おはなしあい

おはなしを聞いて思ったこと、感じたことを語り、聞き合います



帰敬式(おかみそり)

期間中に受式できます



清掃奉仕

清掃場所は話し合って決めます



夕事勤行

参加者全員で「正信偈」をお勤めします



おはなし(法話)

同朋会館教導のお話を聞きます



食事

食堂でみなさんと一緒にいただきます



お内仏のお給仕

お内仏のお給仕を学ぶ時間もあります



カフェ

休憩時間は和敬堂1階ロビーにあるカフェでほっこり♪

参加者の声

「どちらから来られたんですか?」と、食事の時、隣に座った方が話しかけてくれました。次に来た時は私から話しかけて交流したいです。

いつもお寺でお話を聞くだけでしたが、奉仕団に来て、一人ひとりが思いを語り、聞くことをとおして、お互いが悩み、苦しみ、喜び生きている者どうしであると感じました。

帰敬式は緊張して足が震えました。

最高の場所やった。もう忘れんちゃ。

帰敬式を全員で見守ることができてうれしかった。

夕事勤行で、こだまするお念仏の声を聞き、この場に参加されたお一人お一人の思いが重なりあっているように感じ、心があたたかくなりました。また、両堂参拝、諸殿拝観では、建物の歴史をお聞きし、多くの方が触れて色が変わった柱や、毛綱などを実際に見て触れながら、建物の中にたくさんのご門徒の思いを感じました。そこに人がいる。私が感動したのはこのことかもしれません。

私たちが新しい住職さんと一緒に上山しました!!

初めてで不安だったけど、来てよかった! また来ます。

住職修習と同じ日程で、真宗本廟奉仕に住職任命式を見守りました

※助成の対象外



大垣教区専徳寺



九州教区光桂寺



大阪教区圓林寺



新潟教区西蓮寺



能登教区寂静寺



九州教区同朋寺

新任住職・教会主管者引率奉仕団への助成制度をぜひご利用ください!

【助成の対象】 新任住職・教会主管者が引率責任者となり、真宗本廟奉仕で上山する5人以上の寺院・教会の奉仕団

【申込受付期間】 住職・教会主管者の任命日から1年以内

【助成額】 50,000円(後日振込)

※詳しくは同朋会館HPをご覧ください



本山での法要(報恩講、春の法要)や、おみがき、お煤払いに合わせての上山もおすすめです。

お問い合わせ 同朋会館

〒600-8308
京都市下京区七条通新町東入ル新シ町121
TEL:075-371-9185
FAX:075-371-9201

同朋会館

検索



真宗本廟「春の法要」 実如上人五百回忌法要 勤修



音楽法要(4月1日)

4月1日から4日まで、真宗本廟(東本願寺)では「春の法要」が勤修された。本年は3日と4日に実如上人五百回忌法要が勤まり、4日間でおよそ7,800人が参拝した。

1日は午前阿弥陀堂で「師徳奉讃法要」があった。その後、午後からは御影堂で「親鸞聖人御誕生会(音楽法要)」が勤まり、名古屋音楽大学の学生も含めた45人による歌声が御影堂に響いた。記念講演では、乾文雄氏(大谷中・高等学校長)が「共に歩む」を講題に、お荘厳の燭台が鶴と亀であることに触れ、「鶴と亀が違いを乗り越えて共に生きていこうとする姿をとおして、私たちの普段の生活を振り返ってほしい」と述べた。

2日午前の「全戦没者追弔法会」は、テーマ「いまここからはじめる念仏者の平和運動」のもと勤まった。俳優の本多力氏による「追弔の偈」(作詞・高史明)の朗読、法要に引き続き、平川宗信氏(名古屋大学名誉教授)による記念講演が行われた。平川氏は「軍事力ではなく、本願を信

じ、すべてのいのちと暮らしが守られることを願って日々の暮らしを積み重ね、攻撃に対しては非暴力・不服従で抵抗するのが念仏者の平和運動である」と述べた。

午後からは、しんらん交流館において映画『コスタリカの奇跡〜積極的平和国家のつくり方〜』の上映があった。

3日は午前、「相続講員物語者追弔会兼帰敬式受式物故者追弔会」が勤まり、同日午後から4日にかけて、実如上人五百回忌法要が勤まった。

本願寺第9代である実如上人は、蓮如上人が隠居後、1489年に本願寺第9代を継職。蓮如上人の方針を継承して、名号・絵像の本尊、御影類、御文などを、各地の寺院・道場・門徒へ数多く授与し、教団体制の整備に尽力した。1525年に68歳で示寂。今年で五百回忌を迎えた。

境内では、「鐘楼」修理現場の公開や、真宗大谷派教誨師・篤志面接委員会が企画した催事「令和6年能登半島地震」の被災地の現状と宗派支援活動を伝えるパネル展示が行われた。渉成園では、「春の渉成園と粥膳」や、「おもてなしの舟旅」として舟旅体験や「臨池亭」でお茶を楽しむツアーが行われた。



パネル展示



粥膳の様子

東日本大震災「勿忘の鐘」 -2024.3.11- わすれな



東北別院

東北教区東日本大震災復興本部では、毎年「震災を心に刻み、犠牲者を悼み、今後も復興と支援の思いをつなげていきたい」という願いのもと、各地で同時刻(3月11日午後2時46分)に鐘をつき法要を勤める呼び掛けを続けており、本年も10カ寺以上から開催の連絡があった。

この「勿忘の鐘」は、津波により被災した陸前高田市の気仙組本稱寺が、瓦礫の中から掘り出した鐘を「勿忘の鐘」と名付け、被災した地で鐘をつくことから始められ、今日にいたっている。

震災以降も全国で甚大な自然災害が頻発しており、1月1日には「令和6年能登半島地震」が発生した。このような状況の中にあって、全国各地で東日本大震災だけでなく、これら災害の被害に遭われたすべての方々に思いを寄せる「勿忘の鐘」が勤まった。

なお、気仙組本稱寺での法要の様子は、「勿忘の鐘」特設サイトからインターネットによるライブ配信が行われ、現在も特設サイトから視聴することができる。



「勿忘の鐘」特設サイト

レポート

第58回「京の冬の旅」 渉成園特別公開

1月6日から3月18日まで、京都市と京都市観光協会が主催し、毎年冬に開催されるキャンペーン「京の冬の旅」に東本願寺が協力し、本年は、渉成園の建物を特別公開。さらに、予約制で職員が案内する「僧侶の案内による特別拝観」も実施した。

渉成園では、園林堂・閨風亭を特別公開し、期間中17,000人以上が訪れた。園林堂は「京の冬の旅」では初公開となり、訪れた人は、版画家・棟方志功作の襖絵に見入っていた。また閨風亭には、渉成園の歴史を紹介するパネル等を設置した。

僧侶の案内による特別拝観では、御影堂・阿弥陀堂に加え、昨年秋に重要文化財に指定された大寝殿と白書院をご案内し、期間中1,500人以上が参加した。



僧侶による案内(白書院)



パネル展示(閨風亭)

お東さんガイド

お知らせ

『親鸞万華鏡』発刊記念トークセッション 「いま、親鸞を語る」の動画を全編無料公開!

昨年11月30日に開催された、『親鸞万華鏡』発刊記念トークセッション「いま、親鸞を語る」の動画を全編、東本願寺出版YouTubeチャンネルにて公開中です。ぜひご覧ください。



※動画は限定公開です。
こちらのQRコード・URLからのみアクセスいただけます。



動画URL: <https://www.youtube.com/watch?v=2H707HyEU6s>



『親鸞万華鏡』

共著 伊藤比呂美氏、高橋源一郎氏、中島岳志氏をはじめ30人
四六判・372頁/3,300円(税込)

読者のお便り

息子と東本願寺へ

京都府在住
女性(41歳)
そうたろう(9歳)

今年の2月、よく晴れた日に、9歳の息子と東本願寺へ行きました。息子は今回が初めて。私は子どもの頃に何度か訪れて以来、久しぶりの参拝でした。

お寺などの歴史ある建物が好きな息子は、敷地の大きさや、境内の厳かで静かな

空間に、「大きい!」「きれい!」と感動していました。覚えた九九を使ってお堂の畳の数を数えたり、参拝接待所ギャラリーでビデオ上映を熱心に見たり。私も、散策する中で、普段の時間の流れと違うものを感じ、あらためて自分を見つめ直す機会になってとて

もよかったです。

また、参拝接待所にあった「同朋新聞」を今回初めて手に取りました。帰宅後、楽しくクロスワードをできたことも含め、息子にとっても、よい思い出になってくれたら母としてうれしいです。

お便り募集 『同朋新聞』の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。

宛先 Eメール/shuppan@higashihongani.or.jp FAX/075-371-9211
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上 東本願寺出版「同朋新聞編集係」

住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。
紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただく場合があります。

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念
紅地天人之図総手刺繍御打敷謹納

〒600-8159 京都市下京区烏丸通東本願寺前
TEL フリーダイヤル 0120-07-6391
FAX フリーダイヤル 0120-34-2816
<https://shibata-houiten.com/>
(Webカタログ掲載・商品動画配信)

真宗大谷派 東本願寺御用達 京法衣事業協同組合加盟店

株式会社 柴田法衣店

東本願寺御用達
日下念珠店

〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075)351-6325
フリー-FAX 0120-89-5255
定休日: 日曜日

永田文昌堂

最新刊

龍谷大学真宗学一〇〇年史
龍谷大学真宗学会編 定価3080円(税込)

第一部では、真宗学百年の歩みを歴史的に俯瞰し、画期となったいくつかのトピックについて、現在の真宗学の教員が分担する各々が、現役および退職した教員が、現在の研究関心について、また在職当時の真宗学会の活動について論述する。

『初転法輪』迄を解説する。

『大無量寿経』読本一
北塔光昇著 定価1320円(税込)

「大無量寿経」を初めて学ぶ方々にも、話し言葉で簡易に読める解説書。読みやすい分量に数回にわたって、「大無量寿経」を味わう。今回の読本一は、「大無量寿経」を読み進めるに当たって必要な基礎的知識を中心にまとめる。

〒600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031

真宗門徒として帰敬式(おかみそり)を受けましょう

